

ボツワナ共和国月報(2025年1月)

主な出来事

【内政】

- ボコ大統領、サレシャンドBCP党首と会談
- BPF、UDC復帰の動き
- 口蹄疫発生の際鐘
- ボコ大統領、最高裁長官を指名
- タマネCEDA・CEOの停職処分
- ボコ大統領、閣僚の解任の可能性に言及
- BDP、執行部選出を7月に実施
- チエペ元外務大臣死去

【外政】

- ボコ大統領、ガーナ大統領就任式に出席
- エスワティニ首相、ボコ大統領を表敬訪問
- 英国アフリカ担当政務次官、ボツワナを訪問
- ギニアビサウ大統領、ボツワナを訪問
- ボコ大統領、第55回世界経済フォーラムに出席
- ボコ大統領、ミッション300アフリカ・エネルギー・サミットに出席
- ブタレ国際関係大臣、AU平和安全保障理事会の緊急閣僚級オンライン会合に出席
- イスラエル大使、ブタレ国際関係大臣を表敬
- ボツワナ政府、国連アフリカ経済委員会とフォーラムを開催
- ボコ大統領、SADC特別首脳会合に出席

【SADC関連】

- SADC特別首脳会合の開催

【経済】

- 第12次国家開発計画の実施を延期
- 財政問題の深刻化
- 公的債務(2024年度第一四半期)
- 11月インフレ率は1.7%-前月より0.1ポイント上昇-
- 11月の国際商品貿易統計-ダイヤモンドが品目別輸出額首位から転落-
- 通信統計(2023年第4四半期)

【館内関係】

- 進藤大使の着任

【内政】

○ ボコ大統領、サレシャンドBCP党首と会談

17日、ボコ大統領は、野党代表であるサレシャンド・ボツワナ議会党(BCP)党首と大統領府で会談した。両者は、ボツワナの選挙改革や独立監視機関についての包括的法改正及び共通関心事項における超党派協力の可能性を議論した。

○ BPF、UDC復帰の動き

ボツワナ愛国戦線(BPF)は、選挙前に脱退した与党改革のためのアンブレラ(UDC)への復帰が報じられている。現在、UDC内閣でBPF所属の2名が副大臣となっている。

○ 口蹄疫発生の警鐘

マウン(ボツワナ北部)周辺地域において、口蹄疫発生の可能性が高まっており、同地域では口蹄疫の封じ込めに取り組んでいる。2008年以降、同地域での発生の報告はないが、口蹄疫を伝染させる動物として知られる水牛と食用牛の接触を防ぐフェンスの劣化や、ゾウの群れによるフェンスの破壊などにより接触の可能性が高まっている。同地域産の牛肉は口蹄疫の恐れがあるとして、EU市場に輸出できない状況が続いている。

○ ボコ大統領、最高裁長官を指名

18日、ボコ大統領は、健康上の理由で辞職したランノワネ前最高裁長官の後任として、ハオラペルウェ・ジー・ケトヘツウェ氏を指名した。

○ タマネCEDA・CEOの停職処分

20日、ンツィマ通商・起業大臣は、タマネCEDA・CEOを停職処分とした。CEDAは、内部告発により汚職の疑いが持たれており、同大臣は法執行官及び会計監査班が調査をすると発表していた。

○ ボコ大統領、閣僚の解任の可能性に言及

ボコ大統領は、所信表明演説で設定した100日の報告書について、閣僚に報告を求めているが、基準を満たさない内容であった場合、閣僚の解任を視野に入れている。この背景には、閣僚と事務次官との不和もあるとされている。

○BDP、執行部選出を7月に実施

26日、前与党ボツワナ民主党(BDP)は中央委員会会合を開催した。会合では党員から党執行部の総選挙大敗の責任を問う声が上がった。BDPは今年7月にマウンで新党執行部を選出する選挙大会を開催する予定である。

○チエペ元外務大臣死去

26日、チエペ元外務大臣が、102歳で死去した。同元大臣は、外務大臣として第1回TICADへ出席するなど、日本とボツワナの二国間関係強化に尽力した功績が認められ、2010年に旭日大綬章を受章した。アフリカ人としては6人目。

【外政】

○ボコ大統領、ガーナ大統領就任式に出席

6～7日、ボコ大統領はマハマ・ガーナ新大統領の就任式に出席するためアクラを訪問した。ブタレ国際関係大臣及び政府高官が同行した。

○エスワティニ首相、ボコ大統領を表敬訪問

8日、ドラミニ・エスワティニ首相がボコ大統領を表敬訪問し、二国間関係について協議した。両者は両国の歴史的な関係や、ボツワナ、レソト、スワジランドによるBOLESWA大学設立協力を振り返り返ったほか、ドラミニ首相はムスワティ3世国王からボコ大統領の大統領就任の祝意を伝え、貿易等を通じた関係拡大への意欲を示した。

○英国アフリカ担当政務次官、ボツワナを訪問

14～16日、コリンズ卿英国アフリカ担当政務次官がボツワナを公式訪問した。同政務次官はブタレ国際関係大臣を表敬訪問し、貿易・投資、農業、鉱業、再生可能エネルギー分野での二国間協力や、地域・国際の平和と安全保障について意見交換した。また、コシ・マロペ首長会議(Ntlo ya Dikgosi)議長を表敬訪問し、英国とボツワナの二国間関係の強化、首長会議と英国上院の協力深化、人材育成・スキル交換の必要性について意見交換した。

○ギニアビサウ大統領、ボツワナを訪問

15～16日、エンバロ・ギニアビサウ大統領がボツワナを公式訪問した。同大統領はボコ大統領と公式会談を実施し、鉱業、農業、教育、保健分野等での協力強化を協議した。また、ダイヤモンド・トレーディング・カンパニー・ボツワナ(DTCB)を視察した。

○ボコ大統領、第55回世界経済フォーラムに出席

20～24日、ボコ大統領はダボスで開催される第55回世界経済フォーラム(WEF)に

出席するため、スイスを訪問した。同大統領はWEFにて投資誘致活動を展開したほか、Powel Modrzyrisky氏（Nanores Advanced Technology社）及びMagdalena Kolda氏と意見交換を行い、同社によるダイヤモンド産業及びトレーサビリティ技術のボツワナへの展開の可能性等について議論した。

○ ボコ大統領、ミッション300アフリカ・エネルギー・サミットに出席

27～28日、ボコ大統領はタンザニア・ダルエスサラームで開催されたミッション300アフリカ・エネルギー・サミットに出席した。ボコ大統領は「ダルエスサラーム・エネルギー宣言」に署名し、電力コスト削減や再生可能エネルギー促進を通じた持続可能な発展への取り組みを表明した。また、アデシナ・アフリカ開発銀行（AfDB）総裁がボコ大統領を表敬訪問し、両者は南部アフリカの格差是正について協議した。

○ ブタレ国際関係大臣、AU平和安全保障理事会の緊急閣僚級オンライン会合に出席

28日、ブタレ国際関係大臣はAU平和安全保障理事会の緊急閣僚級会合に出席した。本会議では、コンゴ（民）東部の治安・人道状況の悪化について協議された。

○ イスラエル大使、ブタレ国際関係大臣を表敬

28日、ファルヒ・イスラエル大使がブタレ国際関係大臣を表敬訪問した。会談では水資源管理、農業、教育、人材育成分野における協力の強化について意見交換が行われた。

○ ボツワナ政府、国連アフリカ経済委員会とフォーラムを開催

29日～30日、ボツワナ政府と国連アフリカ経済委員会（UNECA）は戦略・技術協議のためのフォーラムをハボローネで開催した。本会議では、ボツワナの開発計画におけるUNECAとの協力強化を目指し、環境、経済、人間開発・社会開発など幅広い課題について議論された。

○ ボコ大統領、SADC特別首脳会合に出席

31日、ボコ大統領はジンバブエ・ハラレで開催されたSADC特別首脳会合に出席した。ブタレ国際関係大臣及び政府高官が同行した。

【SADC関連】

○ SADC特別首脳会合の開催

31日、南アフリカ開発共同体(SADC)の特別首脳会合が、ハラレにおいて開催された。SADCはコンゴ(民)東部におけるM23武装組織とルワンダ防衛軍による攻撃を強く非難し、紛争当事者である政治・外交指導者に対し、コンゴ(民)東部の平和と安全の回復に向けた協調的な対話努力に従事するよう呼びかけた。

【経済】

○ 第12次国家開発計画の実施を延期

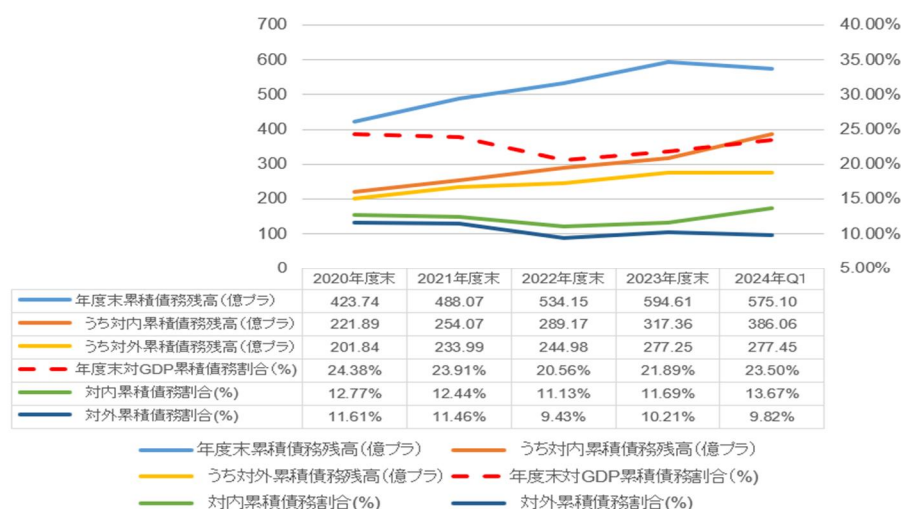
ボツワナ政府は、新政権の公約との整合性を図るため、第12次国家開発計画(NDP 12)の実施を延期することとし、現行の暫定国家開発計画(TNDP)が今年7月まで延長する。(前政権において、NDP12は、2025年の総選挙後、与党が策定・実施することとし、NDP11終了からNDP12実施開始までの期間(2023年4月から2025年3月)は、TNDPを実施することが決められていた。)

○ 財政問題の深刻化

2024/25年度の予算では、ボツワナ政府の財政赤字を補うための国内外からの借入金725億プラで、GDPの24.2%に達すると予測されている。公共債務は依然として持続可能であるが、ボツワナ銀行における政府預金は減少していることから財政上の緩衝余力が減少しており、特にダイヤモンド貿易の減速が予測されることから、経済ショックに対して脆弱な状況となっている。同年度の予算では、総収入は936億プラ、支出は1,023億プラと見込まれ、87億プラの財政赤字が予想される。しかし、ダイヤモンド市場の低迷を考慮すると、赤字額はさらに大きくなる可能性がある。

2024年8月時点で、外貨準備高は578億プラで、輸入額の7.8か月分に相当するが、これは過去の水準よりも低い。

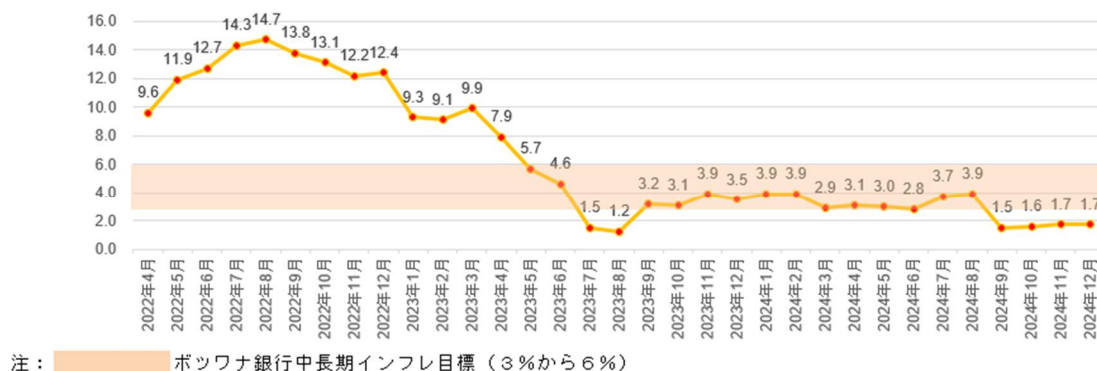
○ 公的債務(2024年度第一四半期)



○ 11月インフレ率は1.7%-前月より0.1ポイント上昇-

12月の年間インフレ率(前年同月比)は1.7%となり、前月から変動なし。分野別寄与度は、上位から食品・非アルコール飲料(0.7%)、雑貨・サービス(0.7%)、酒・たばこ類(0.3%)となっている。

(図:最近のインフレ率の推移)



○ 11月の国際商品貿易統計-ダイヤモンドが品目別輸出額首位から転落-

11月の輸入総額は91.104億プラとなり、前月の84.698億プラ(改定値)から7.6%の増加、一方で輸出総額は、22.892億プラとなり、前月の40.852億プラ(改定値)から44.0%と大幅に減少した(図)。輸出額については、ダイヤモンドの輸出額が大幅に落ち込み、銅が1位となった。この結果、同月の貿易収支は68.212億プラの赤字となり、2023年9月以降15か月連続の貿易赤字となった(同)。

コロナ禍(2020年3月)以降、同月のダイヤモンド輸出額は、2020年4月(注1)に

次ぐ低水準となり貿易赤字額は最大を記録、品目別輸出額順位は首位から転落した（注2）。

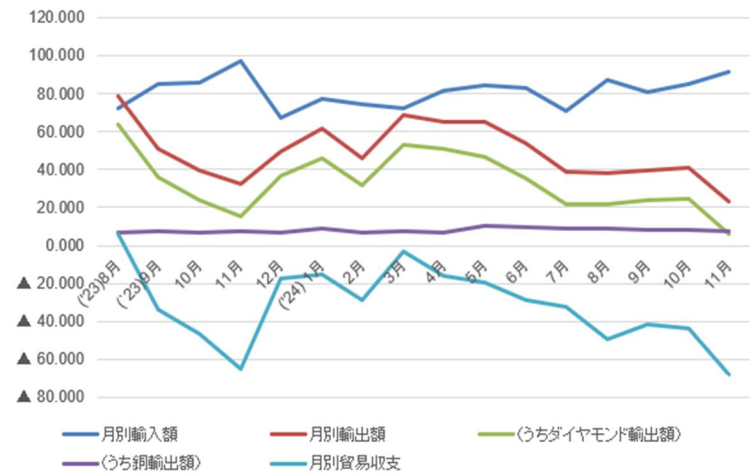
注1）コロナ禍による政府のロックダウン措置等の影響により、ダイヤモンド輸出額はゼロとなった。

注2）速報値ベースであり、改定値では変動もあり得る。

（図：月別貿易収支の推移：2023年8月から2024年11月）

	('23)8月	('23)9月	10月	11月	12月	('24) 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
月別輸入額	71,991	84,925	85,980	97,396	66,898	77,444	74,577	72,012	81,350	84,819	82,888	70,928	87,358	80,885	84,698	91,104
月別輸出額	78,364	50,980	39,458	32,434	49,466	61,897	45,587	68,681	64,989	64,951	53,832	38,723	38,191	39,397	40,852	22,892
（うちダイヤモンド輸出額）	69,615	35,999	24,185	15,282	36,332	46,231	31,835	53,354	50,537	46,681	35,043	21,728	21,689	24,034	24,596	6,180
（うち銅輸出額）	6,530	7,332	7,038	7,829	6,468	8,858	6,744	7,750	6,849	10,257	9,838	8,699	9,043	8,528	8,230	7,805
月別貿易収支	6,373	▲ 33,945	▲ 46,527	▲ 64,962	▲ 17,432	▲ 15,547	▲ 29,010	▲ 3,332	▲ 16,360	▲ 19,668	▲ 29,054	▲ 32,205	▲ 49,167	▲ 41,488	▲ 43,846	▲ 68,212

注）2024年11月は速報値



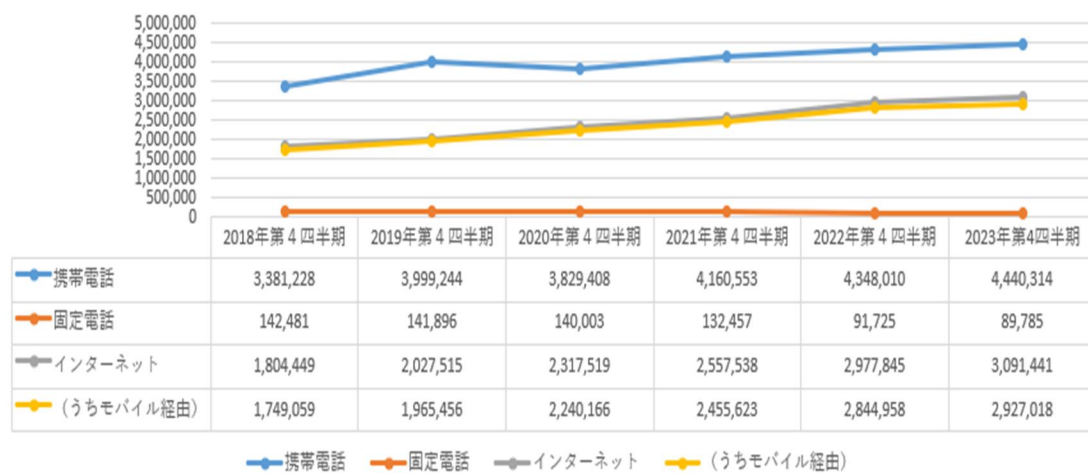
（参考）分野別内訳：上位5分野（％）

	1位	2位	3位	4位	5位
輸入	ダイヤモンド 20.8	燃料 16.5	飲食品等 16.2	機械・電機 14.9	化学・ゴム製品 9.7
輸出	銅 34.1	ダイヤモンド 27.0	機械・電機 10.7	プラスチック 6.0	塩・ソーダ灰 5.3

（参考）国別内訳：上位5か国（％）

	1位	2位	3位	4位	5位
輸入	南ア 61.4	ナミビア 15.2	中国 4.6	インド 2.5	ザンビア 2.0
輸出	南ア 25.8	中国 17.6	豪州 14.4	UAE 12.7	インド 5.9

○ 通信統計(2023年第4四半期)



【館内関係】

○ 進藤大使の着任

18日、進藤駐ボツワナ共和国 特命全権大使が着任した。

(了)